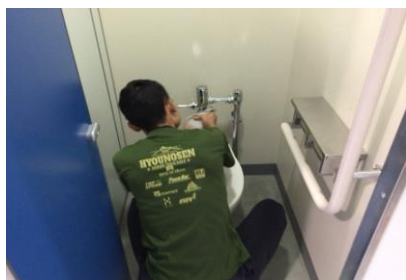


## 第12回 兵庫便教会 報告

3月5日(土)、3月初旬とは思えない陽気の中、芦屋市立精道小学校で第12回兵庫便教会を開催させていただきました。参加者は8名でした。

2Fの男子トイレを掃除させていただきました。まず全員でトイレに入り、どこに汚れがあるかを確認いたしました。目に見える汚れ、少し視線を変えると見えてくる汚れ、そして、見えないけれど確実にある汚れがあります。掃除前の空気感を感じてもらい、掃除を開始いたしました。



静かな空間に便器を磨く音だけが聞こえてきます。耳を澄ますと自分と向いあっておられる皆さんの心の声までも聞こえてきそうです。約1時間半後、清々となったトイレがありました。

交流会では皆さんの今日の感想や最近、感じ考えていることを発表してもらいました。

・尿こしを担当し、どうすれば汚れがとれるのかを考えて取り組んだ。膝を地面につけて体重をかけ、両手を使

うと一番とれると思った。しかし、この方法では尿こしを痛める恐れもある。子どもへの対応に置き換えてみた。斜めから、横から、あるいは持ち上げてみるといった多様な関わり方が大切である。

・母校の掃除ができてよかった。震災の時の6年生であり、2人の友達が犠牲となった。玄関ホールに今でもその子たちの提示物などがあり、嬉しい。

・初めての時はとれない汚れをとろうとしていた自分がいた。今回は軽く長くしようという思いで取り組んだ。教育もいい意味で長い時間をかけてやっていくべきものだと思う。

・今回は水が使えない床であったが、逆に膝をつけて磨くことができた。大学生を教えているが、教室でのゴミなど課題が多い。がんばっていきたい。

・きれいと思ってスタートしたが、やはり汚れがある。先入観や自分の都合だけで子どもたちを判断しているのではないかと思った。対象に近づかないとわからないものがある。

・学校に来る人が綺麗ですねと褒めてくださるが、見えないところに落とし穴があることがわかった。具体的には「におい」。日々の変化に気づき、手立てを打つ必要がある。

トイレ掃除をしながら自分のこと、生徒のこと、教育のことを思いました。そして交流することによって学びがひろがりました。とても充実した会となりました。ありがとうございました。

(文責 木田重果)

